

使徒 2 : 1-13

「教会が生まれ、聖霊を受ける」

2:1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。

2:2 すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。

2:4 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、

2:6 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。

2:7 彼らは驚き怪しんで言った。「どうでしょう。いま話しているこの人たちは、みなガリラヤの人ではありませんか。

2:8 それなのに、私たちめいめいの国の国語で話すのを聞くと、いったいどうしたことでしょう。

2:9 私たちは、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジア、

2:10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで、

2:11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」

2:12 人々はみな、驚き惑って、互いに「いったいこれはどうしたことか」と言った。

2:13 しかし、ほかに「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ」と言ってあざける者たちもいた。

はじめに

数週間前になりますが、前回の学びでは、イエス・キリストの信徒 120 人が、エルサレムの神殿で毎日神を賛美し、毎晩祈祷会を開いていました。

これらの信徒たちは、イエスが使徒 1 : 7 で話しておられた聖霊の約束が実現するのを辛抱強く待っていました。

使徒 1 : 7

1:7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。

神が教会の誕生の日として選ばれたのは、ユダヤの祭りの初日でした。

この祭りが背景となっていることが重要なポイントです。ですから、この祭りについて少し知る必要があります。

五旬節とは、過越しの祭り、仮庵の祭りに並ぶユダヤ教の三大祝祭のひとつです。

英語では「ペンテコスト」となりますが、この「ペンテ」の部分はギリシャ語で 50 を意味します。

この祭りは、過越しから 50 日目に行われることから、こう呼ばれるようになりました。

もともと、五旬節は麦の収穫の終わりを祝うものでした。

レビ記 23 : 15-17

23:15 あなたがたは、安息日の翌日から、すなわち奉献物の束を持って来た日から、満七週間が終わるまでを数える。

23:16 七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物のささげ物を【主】にささげなければならない。

23:17 あなたがたの住まいから、奉献物としてパン——【主】への初穂として、十分の二エパの小麦粉にパン種を入れて焼かれるもの——二個を持って来なければならない。

後に、シナイ山で十戒がモーセに与えられたことを記念して祝われるようになりました。当時、ユダヤ人は、エジプトからの救いの御業が完成したことを記念しました。成就、完成、完結が五旬節のテーマでした。

ですから、このような意味のあるユダヤ人の特別な祝日が、イエス・キリストの地上でなされた働きの完了を示す日となったのはふさわしいことです。

使徒 2 章に記録された五旬節の日は、終わりの始まりだと言えます。

聖霊は、「新たな時代」の予兆です。すべての信徒がいずれ受け継ぐものの「頭金」のようなものです。

エペソ 1 : 13-14

1:13 この方であってあなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。

1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめられたためです。

2 章は、2 回に分けてお話しします。

今日は **1-13 節** を学び、来週 **14-46 節** を学びます。

今日の個所をシンプルかつ明確に学んでいくために、以下の **4 つ** の表題をつけました。

1. その日 (1 節)、**2. 音と光景 (2-3 節)**、**3. 話された言葉と記録された奇跡 (4-5 節)**、**4. 群衆の反応 (6-7 節、12-13 節)**

1. その日 (1 節)

すでに五旬節とその祭りの意味についてはお話しましたが、「みなが一つ所に集まっていた」という個所に注目しましょう。

ルカがここで使っているギリシャ語の単語は、使徒の働きの中で **10 回以上** 繰り返されています。そして、教会の発展に重要な役割を果たしています。

このギリシャ語の単語は、心や思い、気持ち、目的における一致を意味します。

集団が一致団結して行動することを指します。

このような集団には、分裂も関心のずれもありません。人々は完全に一致しています。

この **120 人** の人たちからなる集団は、使徒 **1 : 8** にあるイエスのことばを信じることに完全に一致していました。

彼らは全員、聖霊が来ることを信じ、イエスの証人となる力を聖霊が与えてくださることを信じていました。

聖霊が降臨する目的は、弟子たちをイエスの証人として備えるためです。

つまり、それ以降、イエスの働きが彼らをとおして継続されるということです。

とは言え、イエスの働きに変わりはありません。

聖霊を用いる方法を考えるのは弟子たちの仕事ではありませんでした。彼らは、聖霊の目的がイエスの証人となる力を与えることだとすでにイエスから聞いていたからです。

ある注解者は、一致が神の働きを成すために重要なポイントだと言います。

詩篇 **133 篇** には、神の民が目的や思いにおいて一致するなら、神が祝福を命じられるとあります。

聖霊は、一致の霊です。

自分の個人的な期待や希望を叶えるために聖霊を利用せず、聖霊とともに、神のみことばに沿って歩むかどうかは私たち次第です。

30 年 以上前、私はスコットランドのエジンバラで聖書学院の学生でした。当時、学長がある聖書学院生の話をされました。

その学院では、昼休みに買い物のために敷地の外に出ることは禁止されていました。買い物はその日の授業が終わってから行くように、というのが規則でした。

ある日、学長は家に置き忘れた書類を取りに家まで車で戻りました。そして、商店街の近くに差し掛かった時、ひとりの学生が商店街に向かって歩いて行くのを見つけました。

学長は車の窓を開けて、なぜ校則を破ったのか尋ねました。すると学生は、「大丈夫です。買い物に行ってもよいと聖霊に示されたので」と言いました。これに対して学長は、「それは残念です。今日は商店街がお昼の12時で閉店だということは、聖霊は教えてくださらなかったのですね。車に乗りなさい。学院まで送りましょう。」このように、多くのクリスチャンが自分のやりたいことを押し通すために、聖霊の導きを持ち出します。こういうことをすると、たいていは失望するようなひどい結果になります。聖霊は決して間違われませんし、神のみことばの教えに決して逆らわれません。ひとつめの適用は明らかです。私たち OIC が神の祝福を受ける教会になろうと思うなら、目的において一致する必要があります。その目的とは、初代教会が一致していたのと同じ目的です。イエスの証人となること、そして、証をする力の源として神の聖霊に頼ることで。私たちはイエスにおいて、神の聖霊によって一致するのです。聖書全体が一貫してイエスについて語っています。ですから、私たちは、イエスの死と復活という福音のメッセージを告げ知らせることについて一致するにとどまらず、神のみことばである聖書を信じて生活に適用することについて、一致する必要があります。神の聖霊なしに、神に従う人生を生きることができません。ですから、私たちは生き方と証において神の聖霊に頼ります。

2. 音と光景 (2-3 節)

ルカは、弟子たちがそこで見聞きしたものについて記しています。弟子たちは、突然天から響く音を聞きました。それは、はっきりと風の音ではなく、激しい風のような音でした。この音が、弟子たちのいた家全体に響き渡りました。ものすごい轟音だったことでしょう。弟子たちは驚いたでしょうが、ついに聖霊がやってこられて、ほっとしたでしょう。次に、弟子たちが目にした光景も、言葉では言い表しがたいものでした。実際の火ではありませんでしたが、弟子たちひとりひとりの上に、火のようなものがとどまりました。このふたつのことから、重要性を見つけられますか。聖書を解釈するためには、聖書を調べるしかありません。

ルカ 3 : 15-16

3:15 民衆は救い主を待ち望んでおり、みな心の中で、ヨハネについて、もしかするとこの方がキリストではあるまいか、と考えていたので、

3:16 ヨハネはみなに答えて言った。「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりもさらに力のある方がおいでになります。私などは、その方のくつのひもを解く値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。」

イザヤの証も読みましょう。

イザヤ書 6 : 6-7

6:6 すると、私のもとに、セラフィムのひとりが飛んで来たが、その手には、祭壇の上から火ばさみで取った燃えさかる炭があった。

6:7 彼は、私の口に触れて言った。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」

この文脈における火は、きよめの火です。私たちが時折歌う賛美で「聖めの炎」というのがあります。その一番の歌詞は、このような内容です。

主よ御手で 汚れを取り除き
金のように つくりかえてください

金はどのように精錬されるかご存知ですか。
採掘した金を鋼鉄の容器に入れます。
すでにきれいで純金のように見えますが、不純物がたくさん含まれています。
これを超高温で熱して溶かします。
すると不純物が浮き上がってきます。
この溶けた金の上に浮き上がった不純物を、長い取っ手のついた器具で取り除きます。この上澄みはすべて、純金ではないゴミです。
そして、高いところから見て、溶けた金に人の顔が映る状態になって、純金とみなされます。同じように、聖霊も常に私たちの中にある不純物を焼いて取り除こうとなさいます。私たちの中にイエスのいのちが映し出されるようになるためです。
ですから、イエスは弟子たちにご自身の一部を与える必要があったわけです。
その一部とは、三位一体の神の第三位格、聖書が聖霊と呼ぶお方です。
聖霊の働きの中でも、もっとも大切なのが、罪深い人を聖なる者とすることです。

ヨハネ 16 : 5-11

16:5 しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者はありません。

16:6 かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。

16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。

16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

16:10 また、義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。

16:11 さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。

また、激しい風が吹いて来るような響きが起こりました。
風は目には見えませんが、風の起こす作用はわかります。
日本では台風が過ぎ去ると、風が強かった場合には多くの被害が出ます。
木が折れたり、根こそぎ倒れたりします。建物が壊れたり、停電したりします。昨年、関空連絡橋で起こったように、暴風が吹けば、大きな船が流されて、橋が壊れることさえあります。

聖霊の場合も、そのお働きの作用はわかります。

聖霊によって、心や人生が変えられます。

この働きについては、エゼキエルが預言しています。

エゼキエル書 36 : 22-27

36:22 それゆえ、イスラエルの家に言え。神である主はこう仰せられる。イスラエルの家よ。わたしが事を行うのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った諸国の民の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。

36:23 わたしは、諸国の民の間で汚され、あなたがたが彼らの間で汚したわたしの偉大な名の聖なることを示す。わたしが彼らの目の前であなたがたのうちにわたしの聖なることを示すとき、諸国の民は、わたしが【主】であることを知ろう。——神である主の御告げ——

36:24 わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。

36:25 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、
36:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。
36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。

今年、10月14日（祝・月）に生駒にある関西聖書学院でリトリートを行います。そこで、ヒュー・ブラウン師から直接証をお聞きします。

私とヒュー師とは、30年以上前に神戸でいっしょに奉仕をして以来の知り合いです。彼は北アイルランドのテロリストとして刑務所で服役していましたが、聖霊なる神が彼の心を変えてくださいました。

その変化はすぐさま目に見えるかたちであらわれ、ヒュー師は日本で30年以上も神に仕えています。

10月に彼の証を聞けば、神が人の心を変えられるのは聖霊によると確信するでしょう。聖霊は私たちの心も変えることができになります。

3. 話された言葉と記録された奇跡 (4-5 節)

4 節には、120 人が聖霊に満たされ、他国の言葉で話し始めたとあります。

ギリシャ語の単語「グロッサイ」から、この個所を「異言」と訳す聖書もあります。

このギリシャ語の単語とこの個所で使われている別の単語とについて調べましょう。

ギリシャ語は非常に具体的なので、論争の余地はありません。

使徒 2 章の 4 節と 11 節で使われた舌を指すギリシャ語の単語は、人の口と自分自身を表現する言語の両方を指します。

しかし、6 節と 8 節のギリシャ語の単語は、少し違います。

この単語は、地域ごとに少しずつ変化する「方言」を意味します。

フルギヤとパンフリヤではギリシャ語を話しますが、その地域の方言がありました。

14 ほどの違った言葉を話す地域の人々が挙げられ、それぞれ地元の言語または方言で神のみことばを聞いた、とルカは明言しています。なぜでしょう。

その日に起こった奇跡によって、神のみことばがそこにいたすべての人の言語で伝えられたことを私たちに明確に知らせるためです。

これらの言語は、当時の人々が話している、実在の言語だったことは明らかです。

この日は、五旬節の祭りですから、ユダヤ人だけがいました。

しかし、同じ体験が使徒 10 : 44-48 で繰り返されています。

ペテロは 10 : 47 で、エルサレムで彼らに起こった事が今度は異邦人にも起こったと言いました。

神は、聖霊がユダヤ人と同様に異邦人のためにも与えられると宣言しておられたのです。

これらの現象が繰り返されたことについては、その個所にたどりついたときにまた取り上げます。

習ったことのない言語で話すという奇跡について、いくつか指摘しておきたい事柄があります。

- A) 旧約聖書の時代も聖霊は活発に働いておられましたが、旧約聖書には、このような奇跡はひとつも記録されていません。
- B) マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書に、このような奇跡はひとつもありません。福音書の中に、聖霊に満たされた、または、聖霊からの直接的な力と影響のもとにあったと言われる人々については記されています。ヨセフ、処女マリヤ、ゼカリヤ、エリサベツ、バプテスマのヨハネなどがそうです。
- C) 習ったことのない言語で話すという奇跡は、使徒 2 章からコリント第一が書かれた使徒 19 章までの時代に限られます。これは、約 25-27 年間です。この期間以外で、異言や習ったことのない言語で話すという奇跡は一切記載がありません。

五旬節の日にその場にいた4人の代表的な教会指導者たち、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、ユダが、クリスチャンの教えのために7つの書を記していることを考慮すると、この奇跡について他の個所に記載がないという事実はさらに重要だと考えさせられます。実際、これらの書には、聖霊とその働きについては27度も言及がある一方、異言で話すことについては一度も触れられていません。

パウロは、新約聖書の14の書を書きましたが、初期に記されたひとつの書でのみ異言について書いています。しかも、その内容は誤った使い方を正すかたちでの言及です。1960年代に、非常に公平な言語学的調査が行われ、たどりついた結果は、舌語（異言）が習ったことのない外国語だと科学的に確認されたケースはひとつもないということでした。

この調査結果が掲載されている本は、1972年 MacMillan 社出版のウィリアム・J・サマリNZ著「人と天使の異言」（Tongues of men and Angels by William J. Samarins, Publisher – MacMillan 1972, 邦訳なし）、および、1972年 Hodder & Stoughton 社と Harper & Row 社出版のジョン・P・キルダール著「異言を話す心理」（The Psychology of Speaking in Tongues” by John P. Kildahl, Published by Hodder & Stoughton, and Harper & Row, 1972, 邦訳なし）です。

この部分の締めくくりとして、ここに記された奇跡は120人の人々が聖霊の力によってさまざまな言語や方言で話したというものです。

これにより、聖霊の降臨を確認できました。聖霊は、ユダヤ人がイエスの働きを継続できるように力を与えるために注がれました。

この単発の出来事は、サマリヤ人と異邦人も聖霊を受ける人々として含められるために、その後再び起こりました。その出来事については、その個所にたどり着いたときにお話しましょう。

4. 群衆（5-7節、11-13節）

使徒2：41を読むと、少なくとも3千人の人々が、さまざまな言語で話される120人の言葉を聞いたことがわかります。

群衆は、最初この状況に戸惑いますが、その後、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった、とあります。

そして、「いったいこれはどうしたことか」と言います。

13節で、この奇跡をちゃかして、あの人たちは酔っ払いだと言った人たちもいました。

ここで重要なのは、この群衆です。というのも、5節の記載から、そこに集まっていたのは敬虔なユダヤ人だったことがわかるからです。彼らは、みことばを熟知しており、五旬節の祝日に神の恵みを祝うために集まった人たちです。

11節には、これらのユダヤ人が神の大きなみわざについて聞いたとあります。

彼らは聖書をよく知っていたので、神の真理がそこで教えられていたとわかったのです。

群衆は、神が何か特別なことをなさっていると認識しましたが、その奇跡の意味は理解していませんでした。

後に出てくるペテロの説明を読まずにその意味を理解するには、創世記11章を読む必要があります。

創世記 11：1-9

11:1 さて、全地は一つのことば、一つの話しことばであった。

11:2 そのころ、人々は東のほうから移動して来て、シヌアルの地に平地を見つけ、そこに定住した。

11:3 彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作ってよく焼こう。」彼らは石の代わりにれんがを用い、粘土の代わりに瀝青を用いた。

11:4 そのうちに彼らは言うようになった。「さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。」

11:5 そのとき【主】は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。

11:6 【主】は仰せになった。「彼らがみな、一つの民、一つのことばで、このようなことをし始めたのなら、今や彼らがしようと思うことで、とどめられることはない。

11:7 さあ、降りて行って、そこでの彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにならう。」

11:8 こうして【主】は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。

11:9 それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。【主】が全地のことばをそこで混乱させたから、すなわち、【主】が人々をそこから地の全面に散らしたからである。

バベルで、人間の言語が混乱し、人々は各地に離散しました。

ほんの少しの間、神はある目的のために、ひとつだった言語を混乱させたのろいを取り消されました。

その目的とは、ペテロがあとから語る福音のメッセージによって人々が一致することを、神が望んでおられるという事実を示すことです。

バベルの塔で、思い上がった人間は天に手を伸ばそうとしました。

けれども、その日エルサレムでは、天が聖霊によって人間に手を差し伸べたのです。それは、思い上がった人々の心を変え、天にふさわしく整えるためです。

この個所の学びを終える前に、これが神の御業であることを皆が認識したわけではないことを忘れてはいけません。13節を読むと、今風に言えば、ふざけてこの奇跡を笑いのネタにした人たちがいたことがわかります。

人の心や状況を変えるために聖霊なる神がなさることを、まともに受け取らずに笑う人はいつの時代にもいます。

現代では、人の心が変わったことも何らかの論理で片付けようとし、聖霊のお働きだとは認めません。

けれども、ふざけて笑いのネタにする人たちに、悪から善と聖へと人の心を変えてくれる解決策はありません。神だけが、聖霊によってその解決をもたらしてくださるのです。

まとめと適用

習ったことのない言語で話すという奇跡は、今の時代にはもう神が用いておられない賜物です。

神がもうそれをおできにならないということではありません。今では、献身的に聖書翻訳をする宣教師を通して働かれ、神のみことばを現存するすべての言語で届けようとしておられるのです。まだ聖書が訳されていない言語が、わかっているだけでも6千言語以上あります。

そのような言語を使っている人の数は少数であっても、民族や部族として数えられます。

黙示録7:9には、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから来た人々が天国に行くこととあります。ですから、聖書翻訳に関わる人々のために祈らなくてはなりません。

ウィクリフ聖書翻訳協会は、あらゆる言語に聖書を翻訳する働きをしているおもな宣教団体のひとつです。

次に、すべての国民、民族は、聖霊によって、イエス・キリストの福音において一致することを理解する必要があります。

一致は、文化や言語、趣味趣向から得るものではありません。神の聖霊によって新生して初めて得られるものです。

イエス・キリストにある一致とは、目的の一致であり、その目的とは、イエスとその生誕・死・復活を全世界に伝えることです。また、罪の赦しを得るために、イエスのもとへ人々を招くことです。

今皆さんにお尋ねしなければならないことがあります。

あなたは、罪の赦しを求めて、イエスのもとに行きましたか。あなたの心は、神の聖霊によって変えられましたか。

もしまだなら、今日こそ、イエスのもとに行くチャンスです。